

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200393		
法人名	有限会社 介護社		
事業所名	グループホーム助一 みのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市森山町5丁目23番3号		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171200393-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171200393-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年11月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の高齢化に伴い、最近では身体的変化も多くみられるため、担当医、看護師との連携を密にとり、利用者様に安心して頂けるようお世話させて頂いています。レクリエーションやリハビリもそれぞれの利用者様に合ったメニューを提案する事で、意欲向上に繋がる様支援させて頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名「助一」は、創業者の先祖から受け継いだ、親孝行の遺徳に基づいている。職員は、常に親孝行の精神で、心をこめて介護に専念している。そして、利用者にゆったりと寄り添い、会話や手引き歩行等、共にできることを、本人のペースに合わせて実践をしている。入院中に、食欲の減退、歩行困難になった事例では、その人に合った、独自のリハビリを行うことで、身体機能の回復に効果を上げ、食欲・意欲が向上し、健康で明るく、ゆったりと暮らせるように支援をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	助一の精神と理念として掲げている「いつでも、どこでも、だれにでも」を基本に、毎月の生活の中で常に対応できる様に心掛けています。	理念の基本と「助一」の精神である「介護は親孝行の誠意から」を常に忘れぬよう、会議等で振り返り、全職員で共有をしている。日々地域と関わり、利用者のペースで、ゆったりと過ごせる暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業者・利用者に係わる全ての方に対して平等にそして、気持ちよく過ごして頂ける様施設の周りの清掃、行き合う人とのあいさつ、コミュニケーションを心掛けています。	地元高等学校の音楽祭に招待されたり、災害時の協力関係もできている。ボランティアや音楽療法士との交流も継続している。事業所の桜の木の管理を、近隣者と一緒に行うなど、親しくつきあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「家族が・・・」「自分が・・・」と考え興味、関心を持たれる方への説明や見学、突然の訪問にも対応できる様、対応の仕方も話し合っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで通り2ヶ月に一度の行政・包括・民生委員地域代表・主治医・家族代表の方々の参加で現状報告をしております。いろんな視点より問題提示、話し合いをしております。	会議出席者も定着し、隔月に開催し、運営の現状を報告して意見を交わしている。空き室対策や、庭の花や野菜に付くマダニの駆除等、多様な課題を話し合い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	美濃加茂市サービスネットワーク会議に参加し、他の事業所の方との情報交換をし、良い部分を取り入れる事もでき、活動に積極的に参加しております。	市主催の会合には、積極的に参加し、空き室の情報や他の事業所の取り組み状況等を収集し、事業運営に活かしている。また、市の担当者へは、サービスの実情を詳しく報告し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をして安全に」ではなく、拘束をせずできるだけ安全に過ごして頂ける為にはどうしたら良いのか案を考え、対応しております。天候に良い日は、散歩に出たり、季節により種まき、草取り、野菜収穫など行っております。	身体拘束について学習し、拘束をしないケアを実践している。何気なく発する「待って！」等の抑制的な言葉を使わず、また、見過ごさないように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で再認識、見守り等で気づいたら声かけで防止に努めていく。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について外部研修を受けています。また、職場内の勉強会でも取り上げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、利用者ご家族に確認を取りながら、ご理解と納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見ポストを設置し、ご家族等の意見や要望を頂くようにしています。又、家族会でも意見交換をするなど、随時運営に反映させています。	家族との面会時や、家族会で意見を交換している。「家族の思いを伝えたい、本人の寂しさや生活の変化を支えてほしい」等の要望があり、カンファレンスで検討し、心情に共感したケアに反映させている。	家族とのコミュニケーションを、さらに深め、利用者の心情を、共に支えあう関係づくりに期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案等、スタッフ会議、勉強会などで意見交換を行い反映させています。	職員会議や勉強会で、議題を職員が提案し、運営に反映させている。「マッサージ方法」や「車いすに座ったまま、手入れができるプランター栽培」など、早速取り上げ、実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を把握し職場の環境、条件の整備に努め職員が働きやすく、やりがいを感じられる環境づくりを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講し、その都度受講した職員が中心となり、定期的実施している勉強会で研修内容を発表しています。職員間内でも学びたい内容を抽出し、勉強会を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の施設訪問、ネットワークなどでの交流を通じ、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない場所で不安もあると思いますので、こちらから優しく笑顔であいさつ、声かけをして安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方から話しを十分に聞き、安心と信頼を持って頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方から頂いた情報や担当ケアマネ等からの情報を基に必要支援の検討・確認をし、その人に合った支援を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の声に耳を傾け話を聞いたり、レクリエーションを一緒に楽しみながらの見守りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信・電話で近況報告を行い、往復ハガキにてホームの行事には家族の参加もお願いし、絆を深めています。来訪の少ない家族には電話を入れ、訪問をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ、またお正月の外泊(なじみの宿)に家族にお連れ願ったり、本人の希望で電話をかけて頂いています。	家族をはじめ、友人・知人の面会が多い。美容院や店での買い物、外食にも出かけている。訪れるボランティアと名前を呼び合い、親しく交流をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩・歩行リハビリ時、自立者が車イスの方を押して頂いたり、集団レクリエーション時会話がはずむよう、利用者間の支援・支え合いができるような雰囲気作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節行事や各種イベントに際し、随時ご家族にお知らせしお越し頂けるよう努めています。又、利用者様が入院した後もお見舞いに出掛け情報を頂いたり、ご家族の相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者様と一対一でゆっくりと話を傾聴する時間を設け、暮らしの希望意向をくみとり、職員全体でカンファレンスを通じながら共有に努めています。	愁訴(嘆き)の声が多い場合、居室でゆったりと傾聴したり、入浴介助のリラックスした時間の中で、本音を語ってもらうなどして、意向や思いを把握している。一人ひとりの思いに寄り添い、その人らしく暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を頂くことはもとより、日々の生活をしながらこれまでの生活や習慣になっている事、趣味等を随時うかがい、又、家族からもうかがう事で生活背景の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活の流れを知りつつ、毎日の健康状態に合わせてケアを行いながら、職員間の情報を共有し利用者様の体調管理に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を送る中で、利用者様がケアを受ける事に満足されているか不満はないかを本人様やご家族からもお聞きし、必要な関係者と話し合いながら、今ある問題に対し少しでも解消していける様 介護計画を作成し、ケア実践に努めています。	かかりつけ医の情報や本人・家族の意向を取り入れ、介護計画を作成している。支援経過を評価、モニタリングを担当者を中心に行い、よりよく暮らせるように計画に反映させている。	担当者が、利用者の状態を、さらに細かく把握し、利用者本位の介護計画に反映できるように期待をしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの介護計画に沿ったケアを実践し、職員間の共有とするため個別記録に詳細に記す事を心がけ、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で生じたニーズに応じて、主治医や歯科医師の往診や他科受診等必要に応じて医療的支援・指導を受けています。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの訪問や月に2回音楽療法を行い、毎日体操とレクレーションを通して、共に楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回往診して頂き、その都度適切な治療を行って頂いています。歯科についても同じように往診して頂いています。	かかりつけ医への受診時は「状況提供書」を提出している。協力医による月に2回の往診がある。地域の医院や総合病院と、協力体制を整え、夜間往診と24時間の連絡体制で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に何か変化があれば、ケアマネジャー、看護師、管理者にすぐ伝え、受診するなどの対応をします。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が日頃より病院関係の方々と情報交換し、利用者家族と治療方法を話し合いながら、安心して治療できる関係作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族・ケアマネジャー・管理者・主治医の先生と相談し、真心こめて支援していきます。	口腔摂取が困難な時を、生活の限界とし、契約時に、本人・家族に説明し、同意を得ている。医師と家族でよく話し合い、合意の下で、重度化・終末期の支援に、前向きに取り組んでいる。	重度化・終末期を安心して迎えられようように、家族の協力と信頼関係が、さらに深まる取り組みに期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや毎月行っている勉強会で利用者様の状況を把握し、体調変化・事故発生時の対応が出来る様話し合い、勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回防災訓練を昼夜問わず災害時を想定し、訓練を行っています。訓練後は反省会を行い、注意すべき事を話し合います。	毎月、自主防災訓練を実施し、さらに平日の朝に、多様な場面を想定した訓練を行っている。地域の住民、高等学校との協力体制ができている。緊急時に使える井戸がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんそれぞれの性格により、言葉を選びながら声かけし、尊厳を損ねないように時と場合を選んで対応。決して否定せず、利用者さんの思いを受け入れる。	一人ひとりの、人格を損ねない言葉かけや対応をしている。排泄直後は、気付かれないよう後追いし、汚れやズボンの上げ具合を確認しながら、さり気なく声をかけ、羞恥心に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクを拒否された場合でも無理強いせずに対応、希望された事が出来ない場合は別の事をしてもらい気分を害さないようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さん方の希望には、出来る範囲で対応、都合が悪い時は時間をずらすなどして対応。利用者さんの得意分野を把握し、各利用者さんに合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度出張理容を利用、利用者さんの要望を聞き、カット、パーマ、カラーを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に合わせ、普通食、きざみ食、極きざみ食、ペーストの種類に分け、エンガードなどでトロミを追加し、嚥下しやすくして対応。野菜の筋とりや皮むき、食後の茶碗拭き、膳拭き、フキン干し等片付も一緒にしている。	食材の下ごしらえ、片付け等、利用者も一緒にできばきと関わっている。職員はその様子を、自然体で優しく見守り、個々のペースに合わせ、会話をしながら、ゆったりと食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の少ない方には、声かけやフレイバーを入れ飲みやすくして対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、毎食後に実施。自己にてやられる方には見守りと磨き方の観察、介助する方には、出来る所をして頂き、出来ない所は介助にて対応。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄時間を決めて声かけをして、トイレ介助しています。	個々の排泄時間に合わせて、トイレへ誘導している。個別にリハビリ目標を立て、立位ができ、膝折れを無くし、車椅子自走ができるように改善をしている。夜間のみ、ポータブルトイレを使用し、自立を高めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後、おやつのはきは、水分をなるべく摂って頂くようにしている。バランスよく食事を食べて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時、スタッフ2名で楽しい会話をしながら笑顔で対応しています。利用者の方に着替えの準備をして頂く等自己尊重に配慮している。	一人ひとりの好みや習慣を把握し、入浴中は、歌ったり、会話をしたり、くつろぎの場となっている。入浴後は、オリーブオイルを使用し、皮膚の保湿を保ち、喜んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間出来るだけ、フロアで皆さんと楽しく過ごし、夜間はぐっすりと休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬の際も、日付・氏名・服薬時、朝・昼・夕と声を出して確認をして服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味を大切に、楽しく過ごせる様に寄り添っています。(貼り絵、パズル、外気浴)など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りも出来ています。外食・外出・温泉とご家族と共にされています。	中庭に広がる畑の周りを、日々散歩している。途中にベンチを置き、一休みして外気をたっぷり浴びている。スーパーでの買い物や弁当持参で、文化の森やバラ園等への外出を支援している。	



岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が所持、管理が難しいため、必要であれば家族に連絡しています。それが出来なければ、事務所の方で管理して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望があれば自由に掛けて頂いています。手紙も本人の希望があれば、書いて頂けるよう見守り支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2つのユニット間は、車椅子でも自由に行き来できます。外に出られない時は、各々居室の窓のカーテンを全開にして外の景観を眺めながら、ホーム内散歩をします。外の景色とホーム内の生け花、廊下の作品等で充分季節感を感じています。	清掃が行き届き、換気、加湿、温度調節を適切に行っている。トイレやリビングは、臭いや不快感が無く、清潔である。クリスマスツリーを飾り、柚子の香りも漂い、季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やロビーにも自由に行き来でき移動の制限がないので自由に過ごして頂く事ができます。自己にて移動できない人もスタッフと一緒に2つのユニットを散歩できます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使っていたものを持ってきて頂いています。利用者の状況に合わせ、好みのものを置いたり、飾ったりして工夫しています。花なども飾っております。	衣類や帽子が、使いやすい位置に掛けてある。備え付けの整理筆筒の上には、季節の花を飾り、居室入口には、自分の作品を綴ったノートに、笑顔の写真を貼りつけ、居心地のよい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には、その人の写真や大きいネームプレートをかけたり、トイレも大きく表示しています。歩行器や杖は、使い慣れたものを使用しています。		